

3 級 学科試験問題

1. 試験時間 60 分

2. 問題数 25 題 A 群 (真偽法 25 題)

3. 注意事項

- (1) 携帯電話、腕時計型端末の使用は禁止します。(電源は予め切り、バック等にしまって下さい)。
- (2) 机上に受検票及び筆記用具以外のものを置いてはいけません。
- (3) 電子式卓上計算機、その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (4) 試験官の指示があるまで、この表紙を開けてはいけません。
- (5) 試験官の指示に従って、試験問題のページ数を確認してください。もし、異常があった場合には、黙って手を挙げて下さい。
- (6) 解答用紙はマークシートです。必ず鉛筆又はシャープペンシルを使用して下さい。
- (7) 解答用紙には、等級、受検番号、氏名を必ず記入し、受検番号の欄は、受検区分と受検番号を必ずマークして下さい。
- (8) 試験官の指示に従って、試験を開始して下さい。
- (9) 問題は、A 群 (真偽法 25 題) の 25 題です。
 - ① 真偽法は、問題の内容が正しいか誤っているかを判断し、解答用紙に正か誤のどちらか一つを記入して下さい。
 - ② 解答用紙の注意事項を必ず確認し、A 群と B 群の解答欄を間違わないように記入して下さい。
- (10) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げて下さい。ただし、漢字の読み方を含めて、試験問題の内容についてはお答えできません。また、退室後は試験が終了するまで再入室ができません。
- (11) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。試験開始後 30 分間は退出できません。
- (12) 試験中にトイレに行きたい場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。
- (13) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、試験官の指示に従って下さい。
- (14) 試験終了後、解答用紙は提出して下さい。問題用紙は持ち帰って下さい。

■ A群（真偽法）

1. 清掃作業は、常に建築物全体の環境を考えながら実施する。
2. 廃棄物の収集とは、一時貯留容器に収容された廃棄物を集めることをいう。
3. 建築物衛生法（略称）では、病院は特定建築物として指定されている。
4. 労働災害には、人身の傷害を伴わない事故も含まれる。
5. 事務所から発生するごみを生活系一般廃棄物という。
6. オートスイーパーは、床表面洗浄作業を効率的に行う機械である。
7. ワンタッチモップは、柄と房糸部分が着脱でき清掃区域ごとに色分けして使用できる。
8. 連結送水管は、火災時に消火ポンプ車が送水口から建築物内の放水口へ圧力水を送り込む設備である。
9. 漏電ブレーカーは、電流が流れすぎたときに自動的に電源を切るようにしたものである。
10. 合成洗剤は、動物性または植物性の油脂を原料として製造されている。
11. 建築物内で発生する摩耗粉は、俗に綿ぼこりと言われている。
12. 建築物内で使用される一時貯留容器には、資源化物入れは含まれない。
13. 床維持剤が塗布された階段で、その磨耗が最も激しい箇所は「け込み」である。
14. 自在ぼうきは、おさえ掃きで使う。
15. エレベータは、昇降運搬設備のため、安全面を重視し衛生面は特に重視する必要はない。
16. ビニル系床材に含まれるバインダーとは、樹脂、可塑剤、安定剤のことをいう。
17. 空気調和設備は、室内の空気を適当な温度および湿度に調整するだけである。
18. 建築物衛生法（略称）での、機械器具の整備台帳の保存期間は、5年間である。
19. 廃棄物処理法（略称）では、生活系廃棄物とは事業活動に伴って生じる廃棄物のことである。

20. 建築物環境衛生維持管理要領において、清掃用機械及び器具類、清掃用資材の保管庫は、6月以内ごとに1回の点検を必要とする。
21. 陶磁器質タイルは、陶器質と炻器(せっき)質が一般に多く用いられている。
22. 建築物の清掃は、すべての面で計画的・生産的・経済的に行わなければならない。
23. 油脂類の汚れは、界面活性剤の力で水中に分散・懸濁させることができる。
24. カーペット床材は、豊かな感触性、保温性、吸音性を有している。
25. 建築物から搬出されたごみは、焼却・埋め立て・資源化等の方法で最終的に処分される。

3級 学科試験問題

< 正解 >

A群 真偽法	
設問	解答
1	正
2	正
3	誤
4	誤
5	誤
6	誤
7	正
8	正
9	誤
10	誤
11	正
12	誤
13	誤
14	正
15	誤
16	正
17	誤
18	正
19	誤
20	正
21	誤
22	誤
23	正
24	正
25	正